

♪パティオ はなおか アコーディオン教室「第 16 回発表会」ぶらり訪問記♪

日時:2018 年 5 月 3 日(木・憲法記念日)13:00 開演 会場:ルネこだいら レセプションホール

5 月 3 日(祝)小平市のルネ小平、レセプションホール、で行われたパティオはなおかアコーディオン教室第 16 回発表会を聴きに行きました。ルネ小平の前では小平市自慢の日本一大きい丸ポスト(高さ 2.8m)が迎えてくれました。

5 月 3 日は雨マークの予報でしたが、雨も早目にあがり、まるで梅雨時の晴れ間のような暑さと日射しになりました。いつもながら、開演前から満席でした。

はなおか教室は、国立、恵比寿、所沢、清瀬と 4 つ会場があり、今回は 34 名(内 1 名欠席)が独奏しましたが、そのうち新人は 10 名で、生徒さんの総数は 60 名位だそうです。

習い始めて 1 年で舞台に立つのはすごいと思います。私はグループレッスンでしたので、舞台では合奏や小アンサンブルばかりでした。独奏したのは 4 年位してからでした。

新人さんの中には、大きな花束を 2 つももらった人、最高齢の 86 歳で老人会会長をしていて「若者たち」をエネルギッシュに弾いた人、「浜辺の歌」をベースソロも入れて上手に弾いた人、学生時代を懐かしむかのように「知床旅情」をうっとり弾いていた人もいて、来年はどんな曲を弾くのかなと楽しみです。

アコーディオン歴何年という方々は、クラシック、映画音楽、ポピュラーの中でも、アコーディオンを弾くなら 1 度は弾いてみたようなお馴染みの曲が多かったですが、C o b a やピアソラの曲や「コーヒールンバ」

を弾いた若い人もいました。皆さん曲想を大事にし、きれいな演奏でしたし、つかえても、途中で止まらないで最後まで弾き通すのは素晴らしいと思いました。

尚、「10 回目の花束」と言って 10 回この発表会に出た人に教室より花束をプレゼントすることになっていて、今回はウェルナーの「野ばらの変奏曲」を弾いた方とユダヤ民族音楽「バイムアングeln(釣日和)」を弾いた方でした。お二人とも落ち着いてとてもいい演奏でした。

2 部の始めに花岡先生と佐々木麻喜さんのデュオで「ラ・パロマ」とマイナーできれいな曲「セッサアコーディオン」が演奏されました。そして、生徒さんの発表のあと、先生の独奏「真珠採りのタンゴ」「エデンの東」「小雨降る径」「コンドルは飛んでいく」「碧空」がありました。最後は先生の伴奏で「ふるさと」を全員で歌って終了しました。

尚、奥様の演奏者を思いやる優しい言葉の司会もこの発表会の名物であり、アットホームな雰囲気盛りに上げています。

(北村)

写真は小平市自慢の大ポストです。ポストの大きさがわかるように人物を入れました。



♪「マニュ・モーガン パリ！パリ！パリ！ コンセール・ア・トーキョー」ぶらり訪問記♪

日時：2018年5月10日(木)19:00 開演 会場：めぐろパーシモン小ホール

マニュ・モーガンさんが小ぶりのボタンアコーディオンを抱いて軽やかに登場すると、私の気持ちも楽しく軽やかになりました。サッと座ると「パリの花」「サ・セ・パリ」「パリの空の下」をメドレーで。あら、曲目がたくさんあると思ったら、メドレーなんだ！プログラムには第1部で21曲、第2部で17曲載っています。

マニュ・モーガンさんの新作アルバム「フレンチ・カフェ・ミュージック〜パリ！パリ！パリ！〜」のリリースに合わせての公演です。マニュ・モーガンさんのプロフィールをチラシからかいつまんで載せると、「1971年フランス生まれ。フランスのトップアコーディオニストの一人。フランスに広く流通するアコーディオン教則本を執筆。CDは50枚以上リリース。アコーディオン教育に力を注ぎながらフランス各地で演奏活動中。」

今回はコンサートとCDで二度おいしい思いをしました。コンサートで生の演奏を聴いて、観て、感じて、それから家でCDを聴きながら解説を読む。・・・なんだか贅沢な気分です。



回の

演奏に
使わ
れた
アコ
ーデ
ィオ
ンは今

コンサ

のために作られたというキャバニョロのボタンアコーディオン。華やかな気持ちの良い音で次々と演奏してゆきます。

第1部は「パリの調べ」と題し、「パリのお嬢さん」「オー・シャンゼリゼ」「愛の讃歌」「サンジャンの私の恋人」「パダン・パダン」「群衆」など、よく知られた名曲を。

第2部は東京公演に因んで「さくらさくら」や「素晴らしき哉、日本」「トーキョー・スターリーナイト・ファンタジー」などのオリジナル曲を中心に。あっという間の楽しい時間でした。(写真右は「さくらさくら」で使われたアコーディナ)



演奏写真は全て主催者より提供

このレポートを書きながらCDを聴いていたら、おや、ジャズ？「オー・シャンゼリゼ」なんて、バリバリのジャズ！慌てて解説を読んでみると、全16曲中、6曲はミュゼット・スタイルのワルツ。あとはマヌーシュ・ジャズとあります。「マヌーシュ（ジブシー）であったジャンゴ・ラインハルトを始祖とするフランス独自のジャズ・スタイル＝マヌーシュ・スウィング」だそうで、ジャズ好きの私としては嬉しい1枚となりました。

ところで、マニュ・モーガンさんは持ち運ぶアコーディオンのケースが足りなくなって、キャバニョロは演奏する時のように身につけてホールまで移動してこられたとか。学生の頃、音楽あそびクラブの合宿で同じようにアコーディオンを身につけて特急に乗る

うとした時に「おいくらですか」と見知らぬ人



め
から演奏を促されたことを思い出しました。アコーディオンを始める時、歌、ダンス、遊び、音楽を楽しむ道具としてアコー

ディオンを捉えられたらいいなと考えていたのに、つつい演奏技術やコンクールが頭の中の大半を占めてしまうことがあります。マニュ・モーガンさんの楽しい軽やかな演奏を聴いているうちに、アコーディオンを担いで公園や川岸の遊歩道やキャンプに出かけて音楽を楽しみたいな。楽しみながら上達していけたらいいなと思いました。

(織田裕美)

■一緒にコンサートに出かけた友人からも一言。

5月10日、マニュ・モーガンさんのコンサートに行きました。3曲ずつメドレーで次々演奏される本場のシャンソンやミュゼット。パリの街角か公園の片隅でアコニストが弾いている風景を想像しながら聴いていました。楽器もキャバニョロの木製のおしゃれなボタンアコで素敵でした。気さくな方で、サイン会では一人一人名前を聞いて少しずつ違えて書いてくださったり、写真も一緒にとってください、満足して帰ってきました。(北村きよ江)



(写真：北村さんより提供)

マニュ・モーガン氏は、フランス出身の40代のアコーディオニスト。少年時代からプロとして活躍、ダニエル・コラン氏とも共演されています。おくにでは年間9000*を自ら運転し各地を演奏して回っておられるとか。

日本での2枚目のCD発売プロモーションも兼ねての2度目のコンサートです。プログラムは日本人に馴染み深いシャンソンの歌なしバージョンを縦横無尽な蛇腹さばき、華麗で超絶技巧な演奏で次々と披露しました。

キャバニョロは意外と小さくデリケートな音色。地方色豊かなかの地で、マニュさんの音色が聴衆を心地よく包みマニュさんも心から楽しんでいる様子が伝わってくるようなコンサートでした。(和里田えり子)



生のミュゼットを聴くのは、実は初めてで、職人技のような指使い、多彩なヴァリエーションに、ただもう圧倒されっぱなしでした。

木の楽器を使っている方を最近時々見かけますが、あのような小型の木製アコーディオン、すてきですね。ミュゼット調律の楽器も、ちょっと弾いてみたいなあ、という気がしています。

(後平濤子)



写真：お土産に販売されていた「パリ！パリ！パリ！せんべい」

※演奏写真は、主催者より提供頂いた写真を編集部でトリミングしました。